



Famio News

第54号

福島県鉄工機械工業協同組合
広報委員会



tekkou.or.jp

目次

理事長挨拶	2
交流懇談会	3～8
事務局より	9～10
青年部会より	11

2021年も残すところ僅かとなりました。

コロナ禍で世の中の動きが一変し、これまで以上に、生活行動に大きく制限を受けた感が強い一年となったような気がします。全世界的には今もなお、コロナ感染拡大が収まらない状況ですが、冬はインフルエンザの流行シーズンでもあります。



北半球でインフルエンザの流行が始まるのは、通常11月半ば頃。しかしこれまでのところ、大規模なインフルエンザ流行は報告されておりません。

新型コロナウイルス感染対策のおかげでインフルエンザ流行が抑えられているのかもしれないと考えられますが、しかし、新型コロナウイルスとインフルエンザが同時に流行する「ツインデミック」の脅威が消えたわけではとの事、インフルエンザの流行ピークは一般的に2月。今後同時流行が起きる可能性はあるとする専門家もおられます。

日本ではここにきて、ようやく終息に向かいつつあるようですが、変異株の感染も見られ年末・年始にはこれまでと変わらない感染対策を心掛けてまだまだ気を引き締めての毎日を過ごして頂きます様お願い致します。

何かと不便の多い一年であったと思います。この状況が一日も早く解消され、平穏な日々が取り戻せるよう心から願うばかりです。

とにかくコロナ禍一辺倒であった今年も残り僅かの日々を残すのみとなりましたが、今一度感染対策をしっかりと行って、この年末・年始は健康に気を付けながら乗り切りましょう。最後となりますが、各組合員の皆様には本年も一年間お力添えを賜り、心より感謝申し上げます。また、来る年の組合員企業の繁栄と皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げましてご挨拶とさせていただきます。

■ 福島市交流懇談会

令和3年10月8日(金)、ザ・セレクトン福島において福島市商工観光部3名・当組合10名参加のもと交流懇談会が開催されました。

今回は、ご出席いただいた皆様全員より自社や業界の現況・動向及び行政への要望等を発表いただき、とても有意義な時間となりました。

ご出席いただきました皆様ありがとうございました。

以下、一部抜粋させていただきご報告させていただきます。

【組合員より】

○材料の価格が値上がりしている。

○コロナも落ち着いてきたので、ようやく他県へ営業に行けるようになった。

○事業承継の相談窓口を利用している。

○受注に波があり、忙しい時は残業・休日出勤で対応しているが、気が付くとパタッとなくなるときもある。

○2～3年据え置きで融資を受けている会社さんが相当数おられると思うが、経済が動き出して、返済が始まったときも、条件変更等に柔軟に対応していただけるような体制を作っていただけるよう今後行政にはお願いしたい。

○コロナ禍においても人手不足・人材不足というのが必ず後ろにあると思っており、就労人口減少による労働力確保が大きな課題で、事業継承や技術継承という観点から人材の採用と育成を継続的に行うことが必要であると感じている。

　　今後は、ある程度コストをかけてでも継続した採用を獲得する必要があると感じている。

○社内においてデジタル化を進めていこうと考えているが、有効なサイトやデータをまだまだ活用しきれていないので、今後、デジタル化に向けた推進に力を入れていこうと考えている。IT等導入補助金の採択も受けたので、少しコストをかけて、今年はそのような事にもチャレンジしながら若手人材を確保して、新たなIT技術の導入と運用を検討していきたいと思う。

○コロナ禍においてとても大きな影響が出た。同様に取引企業の設備投資、設備のメンテナンス等においても影響が出て全般的に厳しい状況に置かれていたが、これをチャンスと捉え、今だからできる事ということで、個人のスキルアップを目指した。

競技大会で入賞・機械製缶の技能検定資格に合格するなど個人のスキルを上げることに努力を行っていた。

【当組合顧問（福島県鉄工機械協同組合連合会長） 澁谷氏より】

○溶接ヒューム（特定化学物質指定）が神経系に異常をきたすということが少しずつ分かってきたため、これに対する措置を講じなければならないこととなり、今年度中に溶接ヒュームのばく露測定を実施し、この測定濃度に応じた対応を来年度以降行っていただきたいという法律になった。濃度によって色々措置が違おうと思うが、その対策として、換気・床の部材の対応や特定化学物質作業の主任者を選定等、きっちりと対応をしていただきたいというのが厚労省の意向である。これに伴い、場合によっては相当な出費を要求される企業も出てくるのではないかとと思われるため、業界としてはそのあたりが由々しきところであり制度としての支援が求められる。

○昨年まではウッドショックで、住宅の材料がないため木材に関しては国産材を使用するようにとのことで今動いているようだが、鉄については、コロナの影響が徐々に回復に向けて需要が大変大きくなってきたことと環境問題がある。中国が環境問題の対策として粗鋼生産を控える動きに出ており、原材料が少なくなっているという状況がある。これに伴い原材料が高騰し、当然、製品価格も上昇している。これは、尋常ではない金額で値上がりをしているので、郡山・いわきの組合からは公共工事については、「途中で価格の見直しをしていただきたい」と県に申し入れをして欲しいと要望されている。

この状況はカーボンニュートラル問題も絡んでおり、例えば、日本の高炉メーカーは製造方法を見直さないと今までどおりの作り方ではカーボンニュートラルに対応できないということで、高炉に水素を混ぜてみるといった話も出ているようだが、いずれにせよ材料価格が上がっていく、更に製造過程のコストも上昇しているということで製品価格は増々高騰するだろうと言われている。

また、民間の場合は、見積りを出してから決定するまである程度時間がかかってしまうので、着工するとそもそも赤字になっているというような話もある。民間の方はそうそう値上げがきかないので、下請けさんを使って何とか乗り切っていきたいという話だが、溶接ヒュームの問題もあり小規模事業所は工場運営が出来なくなるのではないかと状況に追い込まれつつあるため、その辺りをこれからどのようにしたらいいのか、鋼材を使う業界そのものがこれから色々見直しを迫られることになりそうで先行きが危惧されるところである。

○現在ハイテクプラザの体制見直しがなされており、昨日少し前進したお話が聞けましたので少しご報告させていただきます。今までは、何も決まっていませんというお話をいただいておりましたが、福島市のハイテクプラザは廃止せざるを得ないだろうということでした。建物の老朽化に伴い現在漏水も漏電もしており、建物自体が使えないということになっているようです。いわきのハイテクプラザも35年になるそうで、こちらも運営がなかなか成り立たなくなってきつつあるようでこちらも将来的には集約されていくのではないかと考えています。また、ロボットテストフィールド内のハイテクプラザに人員が割かれてしまったということもあり、マンパワーも足りなくなってきたので、人も郡山に集約して集中的に皆様方のご要望にお応えしていきたいというお話でした。

福島県は東北で一番の出荷額を誇りながら、山形を除く（非公表）5県中最低の予算しかないということです。他の予算もありますのでこれだけということではありませんが、いずれにせよ予算不足で検査機器の校正がうまく取れていないのが現状です。



(平成30年資料)

・青森県工業試験場	一般財源→1億6900万、工業出荷額→1兆9000億
・秋田県	一般財源→2億、工業出荷額→1兆3000億
・岩手県	一般財源→2億4500万、工業出荷額→2兆5000億
・山形県	一般財源→非公表、工業出荷額→2兆9000億
・宮城県	一般財源→2億4700万、工業出荷額→4兆4000億
・福島県	一般財源→9500万、工業出荷額→5兆1000億

新たな測定装置の導入は非常に高額になりますので、そのような物を備えるには、申し訳ないけれども集約させていただいて1カ所で集中的に管理していきたいということです

○県の商工労働部の動きも色々ある中で、今年度、知財を利用した取り組みとして、競争力を強めた形で地域産業の発展に役立てていこうという考え方があります。

これは、3年間特許庁の事業(福島県を特許庁が応援するという事業)があり、その後を受けて、福島県が主として事業を行い、知財を利用すると足腰の強い産業発展に繋がるので、そのような方向に向けて業界を引っ張っていききたい、あるいは導いて行きたいという流れの中の一環で行われるものです。

これから形作り(仕組み作り)をしますので皆様から知財に関して何かご意見があれば、お申し付けいただきたい。知財というと直ぐに特許が頭に浮かぶと思いますが、実際は自分の会社の中での製造手法であったり、そういった技術の蓄えが知的財産に繋がっていくこともあり、特許を取らないにしてもそういったものが非常に大きな場合もあるので、商標や特許にこだわらないで考えていただきたい。

【当組合顧問 藤橋氏より】

○組合は共同受注を主流としており、共同受注をやる上で、やはり、外注・組合員の方の助けを借りながら組合を運営している。そうすると、そこには組合組織の中でのネットワークができていく訳であるが、ことごとく、その中での部品調達が難しくなってきたり、地場企業の中でできない仕事の種類が多くなってきたり。どういう状況になるかというと、山形方面或いは関東方面・新潟というように外注をせざるを得ない状況となる。現実的にも、そういった状況がきており、販路開拓で関西へも出している。受注形態を関西・関東・東北に分けると、価格交渉の中でかなりの開きがあることに気が付く。関西方面では、かなり低価格の競争をしている安いものが入ってくる。関東圏、逆に東北になると、東北の方が若干高い気がする。

長期的に部品調達をしていると同じ価格でやってきたところが廃業されたことによって新たな取引先を探さなければならない。そうした場合に価格がまるっきり変わってくる。現状の価格で取引ができなくなるといえることが一つ。恐らく組合でも今までやっていただいていたところがやれなくなった場合に他の企業を求めた時にコストが全然違う。我々小規模企業もコスト競争の中でできているが、これまでずっと、10年・20年単価が変わらない。その中で切磋琢磨しながらそれに耐えてやってきたのが現状ではないかと思っている。



○昨年からの新型コロナウイルスで状況がどのように変わったのかということですが、どの位の企業が影響を受けたかというデータの元は種々出されていますが、まず一番は、受注量が減った・売上が半減したとデータに出ています。3割程減少が全国で29%、1割程減少が22%、変わらないという企業も23%ありました。逆に、コロナの関係で増加したという企業も出てくると思います。そのような状況の中でも7割程減というところも出てきており、売上に関しては色々問題ができてきているのですが、これに対する政府・県・市、経済産業省も含めて色々な支援策があります。ここで一つ問題提起したいのは、経済産業省の支援策は80ページ位あり、そこから掻い摘んで我々が支援を見付けるとことは非常に困難であるということである。かなり素晴らしい支援策が出ていることは間違いないが、そこから我々小規模企業が支援策を見付けるのか。経済産業省や県・市もバラバラに出てきており、その中からどれを見付けるのか、非常に難しいため、これがどうにかならないのかという考えです。

○これからの景気の動向についてAI等を見ると、少しずつ回復傾向にあるとデータが出てきている。自動車関係あるいは家電はかなり上昇、半導体関係に救われているのもあるが、自動車関係の動向を見るとどういう風にこれからいくのか。

また、国であげている再生可能エネルギーについてどのように取り組むかというのも一つの大きな課題になってくる。そこで是非取り組んでいただきたい問題が、福島県の工業出荷額を見た場合に、ここまできたということは、福島は誘致企業が来たことでそれに伴い、小規模地場企業もある程度の生産能力・設備能力を上げてきたということだと思う。これから更に市・県は、やはりもう一度誘致、先端産業に囚われないという部分での誘致だと思う。全てが先端作業で潰されてしまうと、県或いは産業振興センターから問い合わせがある場合にはかなり高度な物が要求される。そうすると、設備能力のないところに小規模事業者が対応できない。ハイテクもあると思うのだが、その辺りも含めた形の戻ってきた仕事をどのように取り入れていくのかをこれから視野に入れて考えていかなければならないと思っている。



【福島市商工観光部商工業振興課工業振興係長 石田氏より】

福島市の製造品出荷額等の推移について

福島市の直近10年のデータではポイントが3つあります。まず、2008年は、この当時製造品出荷額は7,945億ありました。翌年、6,710億ということでガクンと落ちています。1,235億、実に16%下がっています。これがいわゆるリーマンショックの現状です。平成20年のリーマンショック以降、実はこのように製造品出荷額がぐくぐくと下がっております。それがちょうど平成23年（2011年）の6,019億が底となっています。なぜ底かと言いますと、皆さんご存じのように平成23年東日本大震災がありました。東日本大震災が起こり、何が起こったかという復興事業です。復興需要によって徐々に景気が戻っています。平成27年6,365億までが復興需要で、ここからまた下がるのですが、復興の税制期間がだいたい5年位なので、復興税制優遇期間が終わる頃（平成28年にかけて）にまたガクッと下がるというのが福島市の現状分析かと思います。そして申し上げますと平成28年～平成30年は5,000億円代で何とか推移をしているというのがこの10年間の福島市の製造品出荷額の傾向ととらえています。

東北6市における製造品出荷額の推移について

福島市・青森市・秋田市・盛岡市・山形市・仙台市の東北6市における製造品出荷額の推移のデータから読み取れるのは、3点位かと私は分析しております。平成15年から平成30年の5年おきの製造品出荷額全体を見ると、福島市と仙台市だけが5,000億を超えるいわゆる工業市というのが全体からわかります。正直申し上げまして、青森市ですと1,000億、秋田市でも3,000億程度、盛岡市でも2,000億程度ということで、福島市と仙台市が5,000億と群を抜いていると読み取れます。更に、特に福島市がわかりやすいのですが、平成20年を境に右肩下がりになっております。同様の傾向が秋田市や盛岡市や山形市でも見られ、平成20年のリーマンショックからなかなか回復できないというのが現状ではないかと捉えることができます。仙台市を見ると7,300億程あった製造品出荷額が平成20年5,700億に下がっており、またそこから上がっているといいますが、平成20年からの5年間で劇的（5,000億から1兆）に回復し、これ程上がっている所が殆どないので仙台市に電話をしたところ、仙台市の回答は分からないところでした。また、事務系の職員は3～4年で異動になってしまうのでこのような長いスパンでの分析はしておらず、逆に教えてもらいたいと言われてしまいました。他の6市を見たな中で、悪いなりに福島市はそれなりの実績がある中で、組合員の皆様のご尽力で、現状維持するのも大変かもしれませんが、なるべく右肩上がりになるようにと考えているところです。

ものづくり夢創塾について

今年から初めてこのような塾を作りました。これは、トヨタ生産方式やDXのポイント等を学んでいこうという塾になります。後継者を対象にというのがこの事業のポイントで、いわゆる〇〇セミナーというのは、だれでも聞けるのでそれはそれで魅力的ですが、やはり将来の福島市を背負っていく方、いわゆる後継者を対象に絞って、更に製造業に絞った中で開催したのは過去にもない新しい取り組みです。13名の塾生と3月の卒業まで何とかやっていきたいと思います。新しい取り組みということで福島民友新聞社に取り上げていただき、本日、日刊工業新聞にも取り上げていただき、本庁としても力を入れていきたい取り組みです。

【福島市 産業支援コーディネーター 菊池氏・宇野氏より】

○企業への訪問活動の中で耳にするのは、コロナの影響で出かけられず営業活動にかなり支障が出ているということです。これは、色々な業界で同じ話を聞いています。

また、部材関係の値段が高騰しているというようなことで通信関係の企業を訪問した時に、金属関係で銅の値上がりやはんだの鉛が今まで10キロあたり数万円だったのが10万円位に上がったという話を聞いています。やはり、材料の値段がかなり上がっているというのが企業さんの仕事にかなり影響を与えているという感じを受けています。

○連合会長からもお話がありましたが、福島県が知財の取り組みを引き継ぐということで、市の方でも県の地域活性化知的財産マッチング事業を県と連携しながらやっているところで、昨日もセミナーを開催し澁谷様に出席いただきありがとうございました。そのような中で、来年の2月15日に知財セミナーを開催するのですが、どのような企画になるのかは県が決めるのですが、是非興味を持っていただき、ご参加いただければと思っています。

○福島市では今年から補助事業ということで新しく3点追加になっています。これは、NEXTチャレンジ支援事業ということで自分の会社でやっていること以外に挑戦というところに補助が出ますということで、今年かなり集まっているとのことで出足好調ということです。事業継続力強化ということで10万円程度の支援、これはBCP（事業継続計画）といいます。

この補助金を使いたいというよりは、こういうものをやりたい、こういうものに使いたいという風に相談していただけたら丁度いいものをご紹介しますかと思います。

○ハイテクプラザの件のお話が出ていましたが、例えば、20年前・30年前と比較して相談に対応できる職員の数について人材育成があまりできていないのが現状だということで、そこが一番大きな問題です。そういうのは割り切ってしまうと、別に福島県内の企業だから福島県のハイテクプラザに行く必要もないので、他県でもいい方がいれば他県まで行った方が、行くのが現実だと思います。昔は高速道路もなかったので遠くまで行くのはなかなか不可能であったが、現在はZoomでも行くことなしに相談できますし、どういう詳しい人がいるのかという情報だけ上手くリサーチ出来れば、色々な相談は可能だと思います。是非そうした公的施設を利用して、社員で足りない部分、技術的な内容を利用していただければと思います。それこそ、昔でしたら機械加工の企業が三次元測定機を持っていないのは普通でしたが、現在では持っていないのはあり得ず、そういう時代のハイテクプラザに問題があると思います。今後も是非訪問させていただきたいと思いますので、宜しくお願いします。

■ 令和3年度 福島市技能功労者表彰

令和3年11月13日に「アクティブシニアセンター アオウゼ」にて「令和3年度福島市技能功労者表彰」の表彰式が挙行され、当組合監事の(有)西坂工業所 西坂龍一氏が受賞されました。受賞おめでとうございます。



■ 新規加入組合員

【事業所名】 有限会社神谷製作所

【代表者名】 相澤 俊一

【事業内容】 機械加工

【会社のPR】 日本の宝「製造業」の看板を掲げ、日々技術の向上と人材育成に尽力致します。



■ 組合事業報告・予定

開催日	事 項
R3.8.19	(仮称) 新しい未来ビジョンふくしま 第1回策定有識者懇談会
8.25	自由民主党福島県議会議員会 各種団体要望聴取会 (連)
9.1	健康診断 (13社)
9.14	福島県商工中金会 役員会・通常総会・講演会
10.4	第64回福島県溶接技術競技会表彰式
10.4	福島県鉄工機械工業協同組合 元理事長 星 榮祐氏 告別式
10.19	第5回理事会
11.17	第2回組合未来構想委員会
11.24	福島県中小企業団体中央会 第2回常任理事会 (連)
11.24	福島県中央商工振興協同組合 通常総代会
12.7	福島県中小企業団体中央会主催研修会 「ものづくり補助金と事業再構築補助金の概要と申請のポイント」
12.17	第6回理事会
R4.1.4	福島市新年市民交歓会
1.6	関係機関 新年挨拶回り
1.19	福島県中小企業団体中央会主催研修会 「厚生労働省関係の助成金の概要」
2.4	組合新年会

■ 青年部会事業報告・予定

日付	行事	場所	人数
9月3日	第2回定例会	Z O O M	8名
9月23日	福島市ものづくり夢創塾 第1回 参加	アクティブシニアセンターアオウゼ	7名
10月3日	第6回青年部ゴルフコンペ	大玉カントリークラブ	9名
11月12日	第3回定例会	組合2階会議室	5名
11月25日	福島市ものづくり夢創塾 第2回 参加	アクティブシニアセンターアオウゼ	6名
12月10日	忘年会	精華苑	12名



■ 青年部会員 募集のお願い ■

青年部会では組合企業に限らず部会員を随時募集しております。**48歳未満**の後継者の方は、是非とも入会をご検討願います。
また、入会希望の方は組合事務局へお気軽にお問い合わせください。